

【Insectopia (インセクトピア)】とは： insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



## 環境問題について考える～生物多様性の減少とその原因～

人口の増加や暮らし方の変化により地球上では様々な環境問題が起きています。地球上に住まう人間、一人ひとりが環境問題に対する認識を深めていくことが、持続可能な社会を実現させるために大切なことです。

### 環境問題について

環境問題とは、人々の活動や地球上の自然なプロセスによって地球環境に変化が生じて起こる問題のことです。現代では、持続可能な社会の実現に向けて、SDGSや生物多様性条約を世界各国が締結するなど、国際的に環境問題と向き合う取り組みが様々に行なわれています。環境問題は多面的なものです。今回は生物多様性に着目し、お伝えしていきます。

### 生物多様性とは

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。私たちの住む地球上には、進化により環境に適応してきた3,000万種もの生物が、直接的・間接的に支えあって、生息していると言われています。しかし、人間の活動による生息地の破壊や過剰な捕獲が、その支えあいに変化を引き起こすことがあります。複雑系ですが、この生物多様性に向き合い考えることは、持続可能な開発や地球の生態系の健康、ひいては我々自身のために必要不可欠なことです。

### 失われる生物多様性

世界自然保護基金 (WWF) とロンドン動物園協会 (ZSL) が公表している「Living Planet Report 2022」によると、1970年からの50年間で野生生物の個体数は平均69%減少しています。このペースで生物が絶滅すると、30年以内に地球上の全生物のうち、4分の1が失われると言われてます。生物多様性は、数多くの種が互いに影響しあい、ときには食物連鎖や共生関係を築いて成り立っています。一部の種が失われれば、関連性の高い種も存亡を脅かされかねません。

### 棲みかを失くしたクマ

近年、人里でのクマの出没が世間を騒がせています。しかし、クマの出没急増の原因は私たち人間であると言われ、その原因には、人工林の荒廃による食糧危機、地球温暖化による自然の森の劣化、再生可能エネルギーなどの開発による生息地の破壊などが挙げられます。人間による自然環境の悪化により、棲みかを失くしたクマは人間に捕殺されます。クマが居なくなった奥山では、生態系のバランスが崩れ、劣化が進行し、動物が棲めない人工林では、湧き水の減少が起こり、山崩れや土石流が多発しています。クマによる被害をなくす方策を考えるだけではなく、クマと棲み分けできる環境を保全することが必要であり、それは多くの生態系を守り、そして人の命を守ることに繋がります。

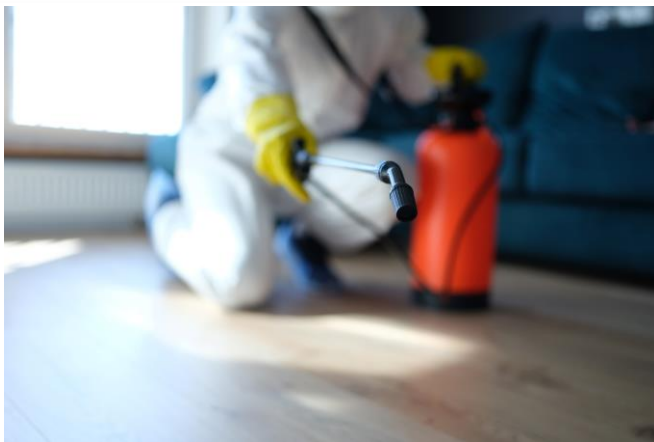
シェルグループでは今後も環境への配慮を忘れず、生態系の健全性と持続可能性を重視しながら、様々な生き物と棲み分けができるような社会の実現を目指していきたいと思えます。



## 世界に広がるトコジラミ被害

### パリの「トコジラミ・パニック」

昨年、トコジラミ（別名：南京虫）の被害についてのニュースが世界各国で報じられています。特にフランスでは社会問題になっており、フランス食品環境労働衛生安全庁が実施した調査によると、2017年～2022年の5年間で、10世帯に1世帯以上でトコジラミの被害が出ていると報告されています。SNS普及により、地下鉄や映画館で「トコジラミを見た」という情報が相次ぎ、動き回るトコジラミの動画が拡散されるなど、トコジラミに関しての多くの情報が世間を騒がせ、一部では「トコジラミ・パニック」と報じられました。こうした問題を受けて、フランス国民議会にて大統領与党連合は、トコジラミ駆除に関する新たな法案を年末までに出すことを表明しています。



### トコジラミはどこから来るのか？

トコジラミは飛ぶことができず、這って移動します。そのこともあり、人間が気づかないまま持ち込むことで広まる可能性は高くなります。トコジラミが発生している宿泊施設に泊まった宿泊者の荷物に潜り込み、移動中に拡散、別の荷物へ移り歩き、増殖していくといったようなことも起きます。インバウンドの増加や、グローバル化による人間以外の物の行き来がコロナ過前に戻りつつある今、改めてトコジラミ繁殖のリスクが非常に高まっています。

### 殺虫剤の限界

韓国もトコジラミが大量発生している国の一つです。韓国政府は、ネオニコチノイド系殺虫剤で作られた8種の「代替殺虫剤」の緊急使用を承認しました。最近見つかったトコジラミが従来の殺虫剤に対して抵抗性を持っているため、防除効果が期待できないという判断をしたためです。ただしこの8種の

殺虫剤はどれも専門防疫業者が使う防疫用殺虫剤なので一般家庭では使うことはできません。環境部国立環境科学院は、今後、ネオニコチノイド系殺虫剤の一般家庭での使用承認手続きを進めていくほか、更に他の殺虫剤の追加使用も検討する計画が報告されています。

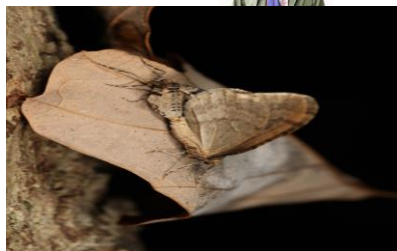
### トコジラミ被害を防ぐために

トコジラミは繁殖率が非常に高く、成虫の雌は、1日に5～6個、生涯に約200～500個の卵を産み、一度発生すると完全駆除が大変困難です。日本政府観光局（JNTO）の推計では2023年9月の訪日外国人数は2,184,300人で前年同月比+957.1%を記録し、今後もトコジラミ被害拡大が懸念されます。シェルグループでは建物の建築段階から予防という観点で、対策・メンテナンス（早期発見）の提案に取り組んでいます。何かお困りごとなどあれば、お気軽にご相談ください。

## 今月のInsect



写真/解説  
中峰 空  
8thCAL技術顧問  
真面目公園昆虫館館長



### ナミスジフユナミシヤク

（波条冬波尺蛾）

チョウ目シヤクガ科

学名：Operophtera brumata

冬に活動する「フユシヤク」とよばれるシヤクガがいる。フユシヤク類は天敵が少ない冬に活動できるように進化したと考えられている。メスの翅が退化しているのは卵をかかえるメスは体が重く、気温が低いと飛ぶのが難しくなるという説が有力。写真は交尾するナミスジフユナミシヤク（ナミシヤク亜科）。上がメス。小さい翅がついている。

## Information

### ●note更新しました

代表の岡部が不定期に更新しているnote。  
想いをストレートに伝えていきます。是非ご覧ください。  
<https://note.com/okb375/n/nf5696f5f6d03>



### ●Pick up 展示会情報

#### エネルギーイノベーション総合展

（※弊社は出展していません。）  
会期：2024年1月31日(水)～2月2日(金)  
会場：東京ビッグサイト東7・8ホール

#### グリーンインフラ産業展2024

（※弊社は出展していません。）  
会期：2024年2月20日(火)～2月22日(木)  
会場：東京ビッグサイト 西ホール

### Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。  
ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を  
配信中です。

